

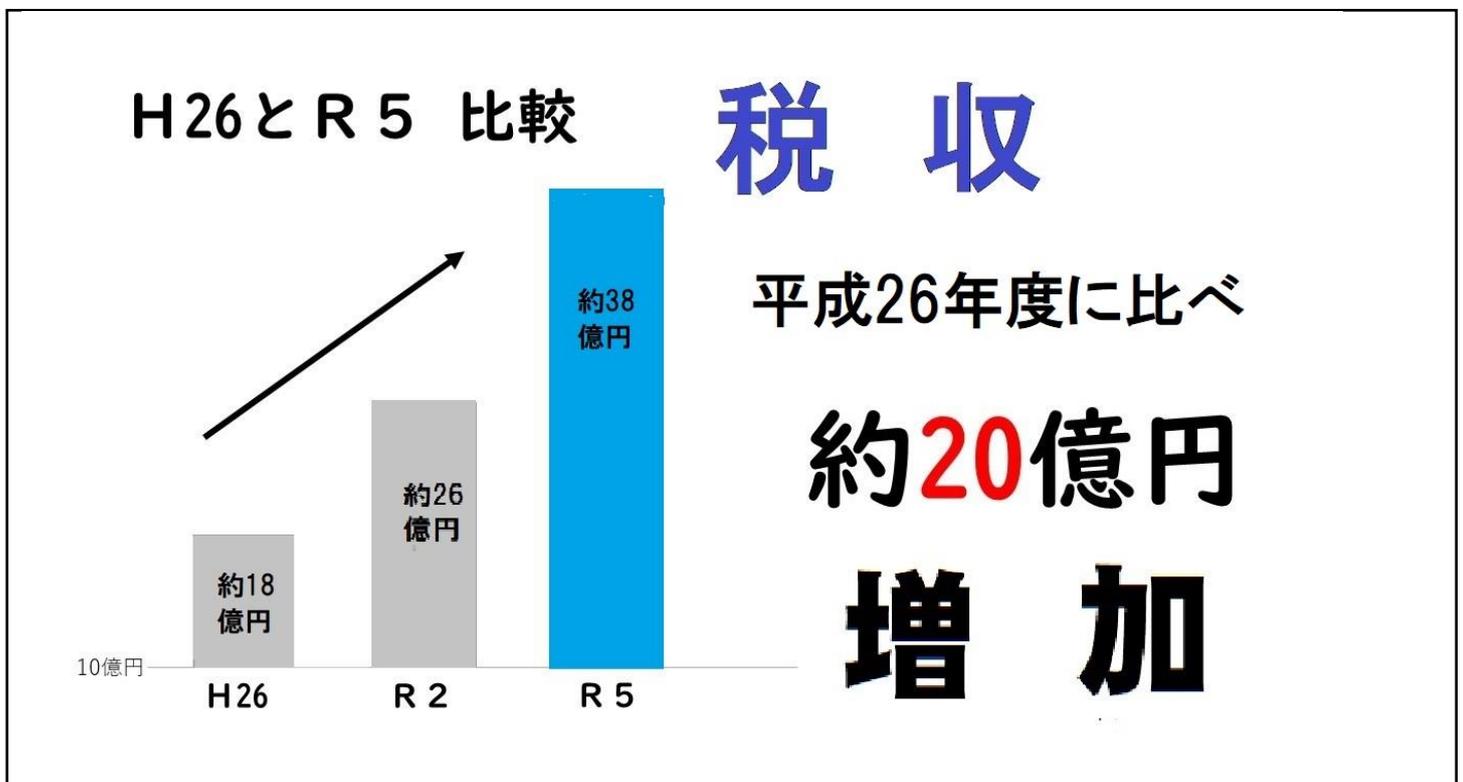
まだまだ道半ば

～令和5年度の決算を認定議会終わる～

令和6年第3回定例議会が、去る9月3日から9月10日の8日間の日程で開催され、令和5年度決算が認定されました。

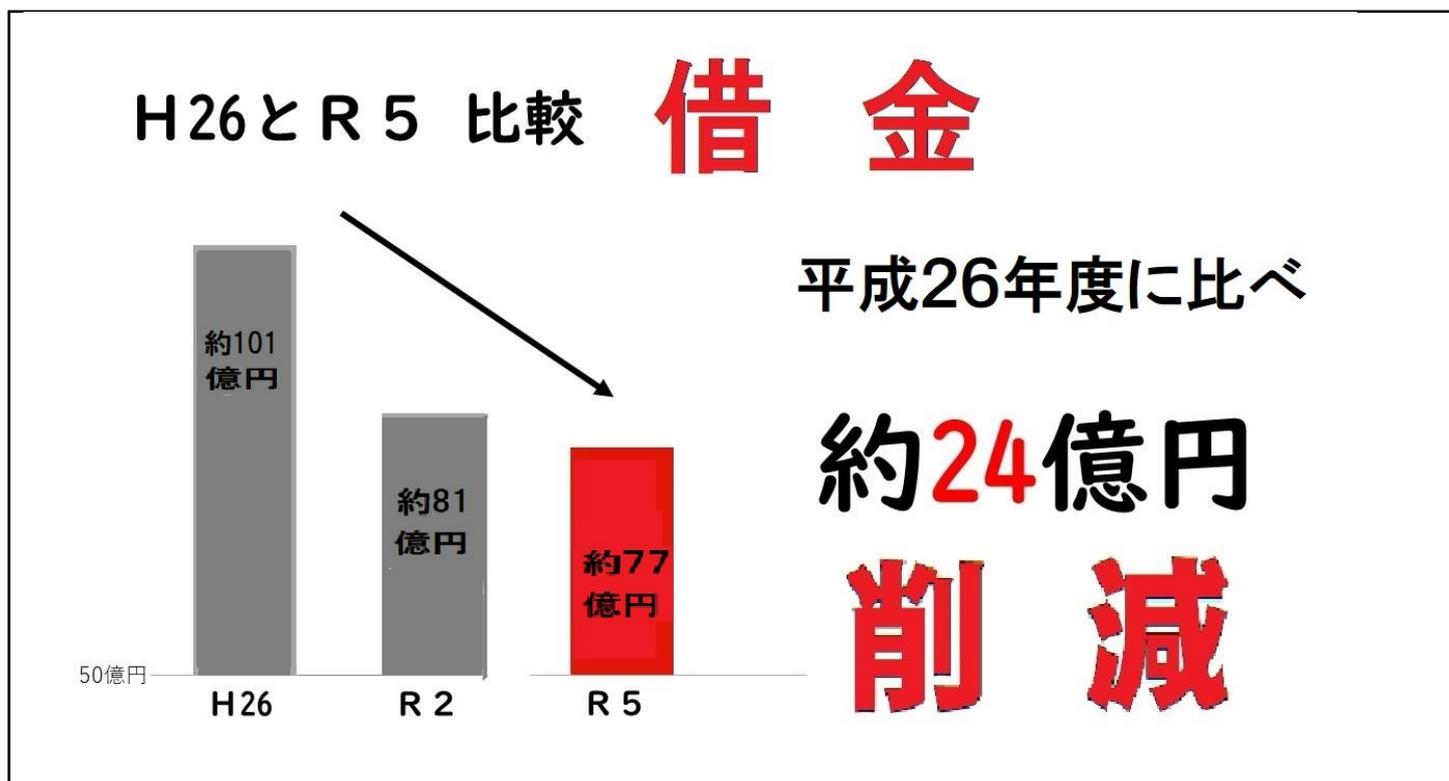
令和5年度決算は、前年に最高税収(36億7,232万円)を記録したものをさらに伸ばして、明和町の過去最高税収である38億6,561万円を記録いたしました。内訳は、町民税23億2,296万円、固定資産税14億1,373万円、軽自動車税4,233万円、町たばこ税8,659万円です。

参考に、平成26年度と令和5年度の税収を比較してみました。



私が町長になったのが平成27年4月です。それから何と約20億円もの増収に転ずることができました。また、川俣駅橋上化事業やふれあいセン

ター設置事業、病院誘致やホテル誘致、コストコ誘致、各道路新設、工業団地造成と優良企業誘致等を重ねてまいりましたが、町の借金についても大幅に減らすことができました。これまで、順調すぎるくらいの好成績を残すことができ大変嬉しく思います。



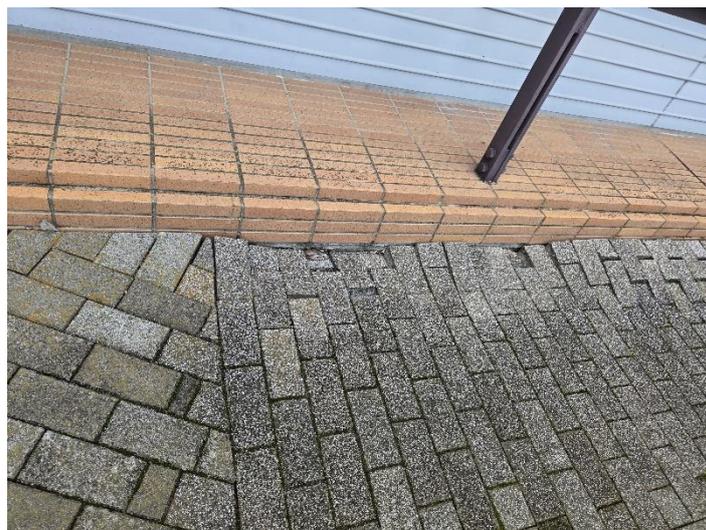
【これからが本番です】

税収が伸びて借金が減らせたからといって、油断している訳ではございません。来年度から西小学校南校舎、再来年から東小学校南校舎、再々来年から中学校南校舎の順に、校舎の強靱化工事が始まり多額の工事費が必要となります。

また、平成17年に出来た役場庁舎も外壁のつなぎ目が劣化しており、放置すると水が浸入して外壁の崩落へとつながります。役場の外壁はタイル材のアッセンブリ(複数のタイルが集合体になり1枚の外壁板を形成して

いる)になっており、つなぎ目が防水のコーキング材(高級ゴム質粘土で耐久性や伸縮性に優れたもの)で埋められております。これにより、強い地震等でも伸び縮みをして外壁がぶつかり合って崩落しないように設計されていますが、さすがに20年もするとクラック(ひび割れや亀裂)が目立つようになります。そこで、コーキングの打ち替えや防水確認が必要となります。

また、東日本大震災時の庁舎は問題ありませんでしたが、周囲の犬走り(建物の周囲の外構につくる細い道)やインターロッキング(レンガを並べたもの)等が沈んでいるので修理が必要になります。



また、明和町には昭和57年の建築基準法見直し前の建築物があります。これには、須賀や上江黒の町営住宅、中央公民館や老人福祉センター、旧保健センター(現在の社会福祉会館・老人福祉センター西)が該当してきます。これらの公共施設の統廃合や建替をきちんと考えて計画を立てる必要があります。

【今後も心配事は尽きません】

以前より「2025年問題」として心配されていた年が、ついに来年に迫ってまいりました。

「2025年問題」とは、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり、労働不足や介護・医療現場の崩壊、経済悪化等の社会問題が発生する可能性があることを指します。また、医療費や介護費が異常にかさみ、国や市町村の財政を圧迫するとも言われております。

令和6年10月1日現在、明和町の高齢化率(65歳以上が人口に占める割合)は、32.7%です。明和町の高齢者は元気な方が多いですが、社会全体では高齢社会特有の、税収が減って福祉費が伸びる傾向にあります。明和町は、超高齢社会でも乗り越えられる財政力を企業誘致等により確保しておりますが、まだまだ道半ばです。これからも財政力アップを目指した施策を行ってまいります。



令和6年11月13日

明和町長

富塚もとすけ